



## 令和6年度 公開講座

### 失語症・認知症のある方と より良いコミュニケーションをとるために ～言語聴覚士の視点から～

失語症といっても多様なタイプがあり、コミュニケーション障害の症状は様々です。認知症も進行により変化していきます。より良いコミュニケーションをとるためには、コミュニケーション相手が、それぞれの障害の特徴を理解し、その人に応じたコミュニケーションスキルを習得することが必要です。

本講座では言語聴覚士が、コミュニケーション障害をもたらす脳の機能、言語障害の種類などを解説し、受講者がコミュニケーション相手に必要とされるスキルを理解し、日々のコミュニケーション場面で活用できる基本的なスキルを習得することを目的とします。

日時	令和6年8月10日(土) 13時00分～16時00分
講師	県立広島大学 保健福祉学部保健福祉学科 コミュニケーション障害学コース 教授 坊岡 峰子 講師 中村 文 広島都市学園大学 言語聴覚専攻科 講師 三上 裕子
会場	県立広島大学三原キャンパス4号館 4103講義室 (三原市学園町1-1)
対象	失語症・認知症のある方のご家族およびボランティアをされている方
定員	20名
受講料	1,000円
申込締切	令和6年7月24日(水)
問合せ先	県立広島大学三原地域連携センター 公開講座係 〒723-0053 三原市学園町1-1 電話：0848-60-1120 (平日9時00分～17時00分) FAX：0848-60-1134 メール：mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp

※講座各回の内容と申込方法は、2ページをご覧ください。

内容	1	コミュニケーション障害を脳の機能から理解しましょう	坊岡 峰子
	失語症や認知症で生じるコミュニケーション障害は、脳の機能からみますと大きく違っている部分と似ている部分があります。まず、それぞれのコミュニケーション障害の特徴を理解するために、脳の機能と具体的な症状などを解説します。		
	2	より良いコミュニケーションをとるために必要とされる、コミュニケーションスキルを確認しましょう	坊岡 峰子 中村 文
	失語症や認知症で生じるコミュニケーション障害は多様です。そのため、より良いコミュニケーションをとるためには、コミュニケーション相手が、それぞれに応じたコミュニケーション手段を理解し、適切なスキルを習得していることが必要となります。様々なコミュニケーション手段やスキルについて解説し、症例なども提示しながらその内容と効果を示します。		
内容	3	レッツ トライ	坊岡 峰子 中村 文 三上 裕子
	失語症や認知症のある方と、より良いコミュニケーションをとることを目指して、実際に演習をして頂きます。演習をしながら、言語聴覚士が具体的に助言などを行い、コミュニケーションスキルの習得・向上をめざしましょう。		
受講条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講座の受講にあたって、マスクの着用は個人の判断にゆだねます。</li> <li>・ 飛沫感染を防ぐために、受講者間の会話はできるだけ小さな声で、短時間のうちに済ませようお願いします。</li> <li>・ 咳やくしゃみの際には、咳エチケットにご留意ください。</li> <li>・ 熱がある場合、風邪症状がある場合、だるさや息苦しさなど普段と体調が違っていると感じる場合、出席をご遠慮ください。</li> </ul> <p>※お申し込みの方は受講条件にご承諾いただいたものといたします。</p>		
申込方法	<p>下記の県立広島大学ホームページ上 URL「申込フォーム」またはQRコードからお申込みください。</p> <p><a href="https://www.pu-hiroshima.ac.jp/ques/questionnaire.php?openid=904">https://www.pu-hiroshima.ac.jp/ques/questionnaire.php?openid=904</a></p>  <p>※申込の方へ受講案内をメールで通知します。メールフィルター設定をされている場合は、@pu-hiroshima.ac.jp ドメインからのメールを受信できるよう設定をお願いします。</p>		